

イ 講演 「これからのグローバルな日本人とは？」

ー私が今まで考えたことー

国連開発計画 ラオス事務所次長（副代表） 久保田 あずさ

1 はじめに

高校から留学をしようと決めていたわけではなく、周りは当然のように、宇和島の県立高校を受験するであろうと思っていた。自分の中では、もっと他に選択肢があると思っていた。高校を卒業したらいずれは宇和島を離れなくてはいけないと思うと、高校から離れても同じではないかと考え、それなら英語を勉強できる海外に行こうと決心した。家族と先生方のサポートによりどんどん話が進み、気が付いたらスイスに行くことが決まっていた。



2 国連職員への道

スイスの学校は、国際色豊かで50数か国から生徒が集まり、全寮制での生活をしてきた。欧米の学校は、成績だけでは、高く評価せず、音楽、スポーツ、また社会福祉活動など、バランスの取れた人間関係に力を入れている。高校2年の時、春休みと夏休みを使ってルーマニアのエイズの子どものための孤児院や精神病院などを訪問した。その頃から、自分に何かできることはないだろうかと考え始めた。なんとなく自然に国際協力に関わりたい、国連で働きたいと思うようになった。アメリカの大学在学中、セネガルに海外留学する。この経験が私の人生を変える。その頃、アフリカにはアジア人がいなかったのが偏見があった。他にも慣れないイスラム教の習慣、衛生面も悪く、電話もなく本当につらかった。ここで強くなった。

卒業後は、日本人にとって国際公務員になる最短ルートであるJPOの試験を受ける。合格者を見ると、圧倒的に女性が多い。よく国連の同僚に、日本人女性は日本で羽ばたけないから、国連で活躍をされると言われる。日本のテレビニュースを見ると、いつも部屋いっぱい見渡しても男性だけ。これは正直格好が悪い。

3 国連機関での仕事

最初に行ったのが、マラウイ。一人当たりのGDPが年間900ドルの国連最貧国リストに載っている国。開発のテーマは、貧困削減と気候変動による食料問題の改善である。村の人々の収入アップにつながり、かつ栄養価も高まり栄養失調などの問題を解決できるということで、キノコ栽培のプロジェクトにも関わった。なかなかキノコを食べてくれず、口に合うレシピを作るなど、地元の人と試行錯誤しながら問題解決していった。この国ではエイズ問題が深刻であり、命の尊さを学んだ。どんどん同僚や政府のパートナーが痩せて、ある日突然いなくなる。一つ一つの命が重く感じられず、はがゆく思ったのを覚えている。国の法整備や公平な選挙が行われる環境作りも重要な要素だが、国民一人一人の命を守っていけることが一番なのではと思う。

マラウイの後、ニューヨーク本部の評価部に配属になった。執行理事国間での論議点、特に発展途上国と先進国が対立する点、どの国がどのように接触して交渉をしていくかなど、国連の政治側の動きが見えて大変勉強になった。

2011年にモルディブ国事務次官の次長として着任した。モルディブといえば、ハネムーンのあこがれの地、パラダイスのイメージがある。憲法で国民がイスラム教のスニ派を義務づけられている大変珍しい国である。イスラム教の影響が近年大きくなり、女性の権利など国連としては気になる点も増えてきている。モルディブの一番大きな問題は、ごみ処理である。モルディブ人の1日平均1～3キロに対して、観光客は7キロ以上のごみを排出している。集められたごみは、首都からボートで40分ほどにある島で仕分けもなく野焼きにされている。未だに、大きな対策はとられていない。

モルディブの後は、現在いる東南アジアのラオスにやってきた。ベトナム戦争時に2億7千万以上のクラスター爆弾が落とされたと言われている。そのうちの3割が不発弾として様々な所に残っている。政府、国連やNGOなどの働きで被害者の数は減ってきているが、今年7月現在で36人の被害者、そのうち25人は子どもで10人の尊い命がなくなった。



4 グローバル人のサバイバル力

多国籍チームをまとめていくという力はこれから日本企業が海外に進出していったり、日本が移民をもっと多く受け入れるようになっていたりしている今、ますます必要になってくる。国連の上司に言われたのは、自分が他の国に入っていくのだから、まず自分が変わって、相手に合わさなければいけないということ。

国連で生き残っていくには、自分をアピールする力が必要。これは日本人が苦手なところである。自分はこんなにすばらしいとアピールするには、かなりの練習と訓練が必要である。

また、最終的に人に認めてもらうためには専門性が必要。専門性があり、仕事ができる人が生き残るのは万国共通である。また、人間として魅力があるかどうかも大事である。多国籍チームで働いていて、人間としての温かさ、人徳というのは大事だと痛感した。

5 愛媛の教育者、子どもたちへのメッセージ

日本で当たり前のことも、世界では夢のようなこともある。日本の医療システムは非常に整っている。日本は、命を大切にしているすばらしい国である。日本のよさも外国に出て、知ることができた。

また、世界は広いから選択肢は無数である。そのたくさんの選択肢を子どもたちが見つけ出すことを、先生方にはサポートしていただきたい。

国作りの基本は教育。教育制度が整っていない、良き人材が育たない国は持続かつ包括的な発展はない。世界がどんどんつながる今、日本と世界を橋渡しできる人材作りに力を入れていただき、世界に発信できるグローバルな日本人育成のために、先生方の影響力と支援に期待している。